

## 齋藤 眞先生 年譜・著作目録

氏名 齋藤 眞  
 本籍 東京都新宿区南榎町57  
 現住所 東京都世田谷区砧 8 丁目26番40号

## 年 譜

- 1921 (大10) 年 2月15日, 東京に齋藤勇・文子の次男として生れる
- 1927 (昭2) 年 4月, 成城学園小学校入学
- 1937 (昭12) 年 3月, 信濃町教会において受洗  
 4月, 成城高等学校文科乙類入学
- 1940 (昭15) 年 3月, 成城高等学校卒業  
 4月, 東京帝国大学法学部政治学科入学
- 1942 (昭17) 年 9月30日, 東京帝国大学法学部政治学科を卒業, 東京帝国大学法学部助手, ただちに休職。海軍主計見習尉官, 海軍經理学校第九期補修学生。
- 1943 (昭18) 年 1月, 海軍主計中尉, 百里原航空隊, 航空本部, 軍需省航空兵器総局に勤務
- 1944 (昭19) 年 5月, 海軍主計大尉, 西部ニューギニア, マノクワリに勤務
- 1946 (昭21) 年 6月, 復員, 助手に復職  
 10月1日, 東京帝国大学大学院特別研究生
- 1949 (昭24) 年 12月, 吉川和子と結婚
- 1950 (昭25) 年 5月13日, 東京大学法学部助教授  
 10月, アメリカ合衆国に出張, 3カ月スタンフォード

- 大学をはじめ、各大学におけるアメリカ研究事情を調査
- 1951（昭26）年 2月、ロックフェラー財団研究員としてペンシルヴァニア大学大学院に在学  
7月、同じくロックフェラー財団研究員としてハーヴァード大学大学院に在学
- 1953（昭28）年 3月、帰国。東京大学＝スタンフォード大学アメリカ研究セミナー委員会委員（1965年4月まで）  
4月、東京大学教養学部講師併任（1958年9月まで）  
5月、東京大学大学院社会科学研究所政治課程担当
- 1954（昭29）年 7月、北海道大学法学部非常勤講師
- 1957（昭32）年 4月、大阪市立大学法学部非常勤講師（1958年3月まで）
- 1959（昭34）年 4月1日、東京大学法学部アメリカ憲法・歴史・外交講座（ヘボン講座）を担当  
5月1日、東京大学法学部教授に昇任
- 1960（昭35）年 4月、学習院大学政経学部非常勤講師（1964年4月から法学部非常勤講師、1967年3月まで）
- 1962（昭37）年 4月、東京大学教養学部講師併任（9月まで）。国際大学協会第四回総会東京組織委員会委員（1965年10月まで）  
9月～10月、アメリカ合衆国に出張（ダートマス会議出席）
- 1963（昭38）年 4月、東京大学大学院法学政治学研究科政治課程主任ならびに法学政治学研究科委員会委員（1964年9月まで）。東京大学奨学委員会委員（1964年9月まで）
- 1964（昭39）年 4月、日米知的交流委員会委員（現在に至る）
- 1965（昭40）年 4月、担任のアメリカ憲法・歴史・外交講座はアメリカ

- カ政治外交史講座と改称される。東京大学アメリカ研究センター実行委員
- 1966 (昭41) 年 1月, アメリカ学会理事 (1984年3月まで), 同常務理事 (1968年3月まで)
- 3月, 学術奨励審議会委員 (1967年6月まで)
- 10月, 日本政治学会理事 (1968年10月まで)
- 1967 (昭42) 年 4月~10月, アメリカ合衆国, ノルウェーをはじめとするヨーロッパ諸国, インド, タイ, フィリピンに出張 (アメリカ学術団体評議会 [ACLS] のアメリカ研究専任研究員としてコロンビア大学で研究, 8月より諸外国のアメリカ研究の実情調査)
- 6月, 東京大学教養学部アメリカ研究資料センター運営委員 (1981年3月まで), 同副委員長 (1974年3月まで)
- 11月, 在日合衆国教育委員会 (フルブライト委員会) 日本側理事 (1972年12月まで)
- 1968 (昭43) 年 3月, 東京大学図書行政商議会委員, 総合図書館運営委員会委員 (7月まで)
- 6月, 国家学会理事評議員 (1972年6月まで)
- 7月, アメリカ研究振興会理事 (現在に至る), 同常務理事 (1980年6月まで)。東京大学評議員 (1969年1月まで)。グルー基金およびバンクロフト奨学基金評議員 (1982年9月まで)
- 1969 (昭44) 年 6月, 韓国に出張 (フルブライト委員会合同会議に出席)
- 1970 (昭45) 年 2月, 東京大学法学部研究室主任 (1971年1月まで)。東京大学法学部明治新聞雑誌文庫運営委員 (1981年3月まで)

- 6月, 大学設置審議会委員 (文部省, 1980年9月まで) 東京大学出版会評議員 (1974年まで)
- 1971 (昭46) 年 1月, 東京大学評議員 (1974年3月まで)  
 4月, 明治新聞雑誌文庫主任 (1973年5月まで)  
 5月, タイに出張 (フルブライト委員会合同会議に出席)  
 6月～7月, 南西諸島 (沖縄) に出張 (琉球大学アメリカ研究所講師)
- 10月, 視学委員 (文部省, 1973年3月まで)。京都夏期アメリカ研究セミナー実行委員 (1982年3月まで)
- 1972 (昭47) 年 4月, 日本学術振興会日米教育文化協力事業委員会委員 (1982年3月まで)。台湾に出張 (アメリカ研究について講演)  
 6月, アメリカ合衆国に出張  
 11月1日, 東京大学法学部長 (1974年4月1日まで)  
 東京大学法学部法学部附属外国法文献センター長,  
 東京大学大学院法学政治学研究科委員会委員長, 東京大学大学院協議会委員, 東京大学評議員 (以上1974年4月1日まで)
- 1973 (昭48) 年 2月, 学術審議会専門委員  
 6月, アメリカ合衆国に出張
- 1974 (昭49) 年 5月, ユーゴスラヴィアおよび連合王国へ出張 (ベオグラード国際大学協会セミナー参加, およびロンドン大学アメリカ研究所訪問)  
 5月1日, 東京大学社会科学研究所教授併任 (1979年3月31日まで)  
 8月, 韓国に出張
- 1975 (昭50) 年 4月, オーストリアに出張 (ヨーロッパ地域アメリカ

- 研究者会議に参加)
- 6月, アメリカ合衆国に出張
- 9月, 韓国に出張 (韓国アメリカ学会アメリカ研究セミナーに参加)
- 1976 (昭51) 年 4月, アメリカ学会副会長 (1980年3月まで)
- 5月, アメリカ合衆国に出張
- 6月, 国際文化会館評議員 (現在に至る)
- 9月~10月, アメリカ合衆国に出張 (200年記念研究会に出席)
- 12月, 中華人民共和国に研修旅行
- 1977 (昭52) 年 1月, 日米文化協力合同委員会 (カルコン) 日本側委員 (外務省, 1982年まで)
- 4月, 東京大学教養学部講師併任 (9月まで)。琉球大学法文学部非常勤講師 (10月まで)
- 6月, アメリカ合衆国に出張
- 1978 (昭53) 年 6月, 国家学会理事長 (1980年6月まで)
- 8月, 韓国に出張
- 9月, アメリカ合衆国に出張し, プリンストン高等研究所所員 (1979年4月まで)
- 1979 (昭54) 年 4月, 国際文化会館理事 (現在に至る)
- 6月, アメリカ合衆国に出張。 *American Studies International* (米国アメリカ学会, 国際機関誌) 編集委員 (1980年5月まで)
- 1980 (昭55) 年 4月, 東京大学教養学部講師併任 (9月まで)。アメリカ学会会長 (1982年3月まで)
- 5月, アメリカ合衆国に出張
- 7月, 放送教育開発センター客員教授および運営委員 (1982年まで)

- 1981 (昭56) 年 4月1日, 東京大学教授を定年により退職  
4月2日, 国際基督教大学教授  
4月, 映倫管理委員会委員 (1982年9月まで)  
5月19日, 東京大学名誉教授  
6月, 英語教育協議会 (ELEC) 理事 (現在に至る)  
11月, 放送大学開学準備委員会委員 (任期2年)
- 1982 (昭57) 年 4月, 国際基督教大学図書館長 (1984年8月まで)
- 1983 (昭58) 年 4月, 放送大学客員教授 (1988年3月まで)
- 1984 (昭59) 年 4月, 貿易研修センター客員教授及び運営協議会委員  
(1988年3月まで)
- 1985 (昭60) 年 7月, 国家学会理事 (現在に至る)
- 1986 (昭61) 年 4月, 国際基督教大学大学院教授 (1990年4月より特  
任教授)  
10月, 学術振興野村基金理事 (現在に至る)
- 1989 (平1) 年 12月, 日本学士院会員
- 1991 (平3) 年 1月, 国際基督教大学平和研究所所長 (1991年3月ま  
で)  
3月, アメリカ学会名誉会員  
3月31日, 国際基督教大学教授を定年退職  
4月1日, 国際基督教大学平和研究所客員所員

## 著作目録

1947 (昭22) 年

書評「E. S. コーウィーン『米国憲法と世界組織』『アメリカ文化』 第  
2巻6号

1948 (昭23) 年

「ニュー・イングランド・プリマ―罪の文化―」『アメリカ研究』  
(アメリカ学会) 第1シリーズ第3巻5号

書評「J. マリタン『キリスト教とデモクラシー』『基督教文化』  
第31号

1949 (昭24) 年

「1907-9年の米国艦隊世界周航と日本」『アメリカ研究』第4巻7号

書評「C. ロンター『立憲的独裁』『アメリカ研究』第4巻4号

「信仰の生涯—私の場合」『福音と時代』第4巻6号

1950 (昭25) 年

「憲法制定」思想の科学研究会編『アメリカ思想史』第1巻 日本評論  
社

「日本における米国政治の研究」『アメリカ研究』第5巻7号

「オルバニー聯合案」(訳および解説) アメリカ学会編 『原典アメリ  
カ史』第1巻 岩波書店

「ニュー・イングランド聯合案」(訳および解説)『原典アメリカ史』第  
1巻

書評「藤原守胤『アメリカ革命史論』」『アメリカ研究』第5巻1号

「『フレンツ国際学生セミナー』の収穫」『アメリカ研究』第5巻10号

1951 (昭26) 年

「ジェームズ・ウィルソン・フィラデルフィア市民集会における演説」  
(訳および解説)『原典アメリカ史』第2巻

「ジョージ・メイソン・『憲法に対する反対論』」（訳および解説）

『原典アメリカ史』第2巻

「アメリカ憲法」『世界歴史事典』第1巻 平凡社

1953（昭28）年

「最近のアメリカ政治学界—政治過程論を中心として」日本政治学会  
『年報政治学—戦後日本の政治過程』岩波書店

「ウェブスターとカルフーン」（訳および解説）『原典アメリカ史』第3巻

「キリスト教国アメリカ—異邦人の見たアメリカの教会」『福音と世界』第8巻5号

1954（昭29）年

「超党派外交の論理と現実」日本政治学会『年報政治学—戦後世界政治と米国』岩波書店

「アメリカの政治制度」他5項目『政治学事典』平凡社

書評「S. V. ベネー『アメリカ民主主義のあゆみ』」『日本読書新聞』747号

1955（昭30）年

「サウス・カロライナの連邦脱退法」（訳および解説）『原典アメリカ史』第4巻

「S. ルベル『アメリカ政治の将来』」（紹介論文）『国家学会雑誌』（東京大学法学部）第69巻9・10号

「アメリカ合衆国・政治」ほか4項目『世界百科大事典』平凡社

「マサチューセッツ学校法」（訳および解説）ほか6項目『世界歴史事典』平凡社

1956（昭31）年

「アメリカ独立革命の一考察(1)—忠誠の二重性」『国家学会雑誌』第69巻11・12号

「C. A. ビーアド「アメリカ合衆国史」によせて」『図書』84号

書評「A. M. シュレジンガー『アメリカの歩んできた道』』『日本読書新聞』829号

書評「都留重人『現代アメリカの思想』』『日本読書新聞』845号

書評「A. シーグフリード『現代—20世紀文明の方向』』『福音と世界』第11巻9号

「個人の決断の行方」『福音と世界』第11巻1号

1957（昭32）年

「民主主義の風土化」『岩波講座 現代思想』第14巻「民衆と自由」岩波書店

「R. E. ブラウン『チャールズ・ピアードと憲法』」（紹介論文）『国家学会雑誌』第71巻7号

「D. ベル編『アメリカの新右翼』」（紹介論文）『思想』401号

「フランクリン・ルーズヴェルト『連邦司法部改革案』」（訳および解説）『原典アメリカ史』第5巻

「アメリカにおける外交と議会」『季刊外交』7月号

「輿論の法廷か異端審問所か—アメリカにおける国政調査権—」『世界』138号

書評「ロバート・シャーウッド『ルーズヴェルトとホプキンス』』『日本読書新聞』899号

書評「鶴見俊輔『転向期のアメリカ思想』』『日本読書新聞』905号

書評「H. ファイス『真珠湾への道』』『図書新聞』382号

「独立宣言」ほか6編（訳および解説）高木八尺・末延三次・宮沢俊義編『人権宣言集』岩波書店

1958（昭33）年

ダニエル・ベル編『保守と反動—現代アメリカの右翼—』（泉昌一共訳）みすず書房

「アメリカ独立革命」『講座 現代倫理』第10巻「転換期の倫理思想」筑摩書房

「V. O. キイ『南部の政治』および『南部の二党制化?』（紹介論文）『国家学会雑誌』第71巻9号

「1947年 国家安全保障法」（訳および解説）『原典アメリカ史』別巻

「進歩党 1948年の政綱」（訳および解説）『原典アメリカ史』別巻

「H. トルーマン『フェア・ディール』（訳および解説）『原典アメリカ史』別巻

「E. S. コーウィン, L. W. ケーニック『今日の大統領職』（訳および解説）『原典アメリカ史』別巻

「アメリカはなぜ不寛容なのか」『中央公論』837号

#### 1959（昭34）年

高木八尺教授古稀記念論文集『現代アメリカの内政と外交』（編）東京大学出版会

「アル・スミスと民主党再編—都市化に伴う政治指導の変容—」『現代アメリカの内政と外交』

「高木八尺先生のアメリカ研究」『現代アメリカの内政と外交』

「アメリカのエリート—ヘンリー・アダムズの『教育』—」『みすず』第1巻8号

書評「L. チャーンウッド『リンカーン伝』」『図書新聞』523号

『イギリス』（編著）（玉川こども百科第88巻）誠文堂新光社

「世俗における信仰—リンカーンの場合—」『興文』6月号

#### 1960（昭35）年

「アメリカの時代背景—20世紀（1940年まで）—」『英米文学史講座』第10巻（20世紀1.）研究社

「『国際信義』と『国内信義』—条約の調印と批准—」『世界』171号

「モンロー主義から多様な現実へ—転機に立つアメリカ外交—」『中央公論』867号

「アイク訪日中止の意味」『ジャーナリスト』6月20日号

「日米修好百年の汚点—アメリカの一友人への手紙—」『世界』175号

- シンポジウム「安保改定反対闘争の意味」『思想』434号  
 「高木八尺先生とアメリカ研究」『図書』125号  
 「アメリカ合衆国憲法」(訳および解説) 宮沢俊義『世界憲法集』岩波書店  
 書評「V. パッカー『地位を求める人々』」『週刊読書人』317号  
 書評「今津晃『アメリカ革命史序説』」『週刊読書人』353号  
 「『黒いジェット機』と新安保の採決強行」『福音と世界』第15巻6号  
 「われわれの政治を求めて：“人間”が歩き出した」『婦人の友』第54巻8号  
 「キリスト者の政治的決断」『興文』8月号

## 1961(昭36)年

- 「J. C. カルフーンにおけるナショナリズムとセクショナリズム(1)」『国家学会雑誌』第74巻11・12号  
 「アメリカ膨張主義の伝統と転換—大陸帝国から海洋帝国へ—」日本政治学会『年報政治学—現代世界の開幕』岩波書店  
 「アメリカにおけるコンフォミティの史的背景 上」『思想』449号  
 「アメリカの時代背景—18世紀(1701-1797)—」『英米文学史講座』第6巻(18世紀2.) 研究社  
 「アメリカの時代背景—19世紀(1836-1901)—」『英米文学史講座』第8巻(19世紀2.)  
 「アメリカ〈外交〉の発足—フロンティアの消滅と新しい探究—」『世界』184号  
 「文化交流と対外姿勢」『思想の科学』34号  
 「ケネディの当選と日本」『月刊キリスト』第13巻2号  
 書評「パドローヴァー編『ジェファソンの民主主義思想』」『朝日ジャーナル』第3巻16号  
 書評「内村茂樹『アメリカ新聞の生成過程』」『新聞学評論』11号  
 書評「A. ヒメネス『キューバ革命への道』」および「C. W. ミルズ

『キューバの声』『週刊読書人』368号

書評「C. ボールズ『平和繁栄への新路線』」『週刊読書人』379号

書評「富田虎男『ジェファソン』」『週刊読書人』393号

「新情勢下の池田体制」『朝日ジャーナル』第3巻31号

「キリスト者の社会的責任—我らは何をなすべきか—」『透明』8号

#### 1962 (昭37) 年

『アメリカ外交の論理と現実』 東京大学出版会

「J. C. カルフーンにおけるナショナリズムとセクショナリズム(2)」『国家学会雑誌』第75巻1・2号

「C. W. ミルズの死とフロンティア精神」『みすず』第4巻5号

書評「H. アプセーカー『ライト・ミルズの世界』」『週刊読書人』427号

書評「J. S. ミル『アメリカの民主主義』」『週刊読書人』433号

書評「E. E. シャットシュナイダー『政党政治論』」『週刊読書人』451号

デーヴィッド・リースマン「『孤独なる群衆』の再検討」上・下 (訳) 『思想』451号・452号

「知的活力の萎縮を排す—言論の自由について—」『教育』第12巻5号

「教会の歴史形成」『学生キリスト者』第3巻9号

「今日の社会とキリスト者の責任」『月刊キリスト』第13巻4号

#### 1963 (昭38) 年

エーリッヒ・フロム『人間の勝利を求めて』(清水知久共訳) 岩波書店  
クリントン・ロスター『アメリカの保守主義—伝統と革新との交錯—』(田中治男他共訳および解説) 有信堂

「マニフェスト・デスティニー—アメリカ膨張主義の論理—」『歴史教育』第11巻12号

「キューバとモンロー主義 上」『思想』466号

「アメリカの指導者展望」 加藤秀俊編『新しいアメリカ』河出書房新社

「星条旗よ永遠なれ」『新しいアメリカ』

「アメリカにおける中国観」『世界』210号

「世界を動かす7人—ケネディ大統領—」『中央公論』911号

「ケネディからジョンソンへ—1, ケネディ暗殺後のアメリカ」『朝日ジャーナル』第5巻49号

書評「ルイス・ハーツ『アメリカの自由主義の伝統』」『週刊読書人』485号

書評「太平洋戦争への道」『朝日ジャーナル』第5巻48号

「大学管理問題をめぐって」『大学キリスト者』（『学生キリスト者』を改題）第3巻12号

#### 1964（昭39）年

「冷戦と国内政治体制」『岩波講座 現代』第6巻「冷戦—政治的考察—」岩波書店

「西側のソ連・中国観と共産主義観」『岩波講座 現代』第6巻

「現代資本主義社会における民衆 概説 アメリカ」『岩波講座 現代』第11巻「現代の民衆」

「アメリカの中国政策—その史的遺産—」『国際問題』49号

「アメリカ史の中の三年間」『世界』216号

「アメリカ民主政治の危機—ゴールドウォーターの進出が意味するもの—」『潮』51号

「黒人問題の新しい局面」『中央公論』909号

書評「中屋健一『アメリカ西部開拓史』」『週刊読書人』506号

書評「D. J. ブースティン『アメリカ政治の特質』」『週刊読書人』537号

「米共和党と過激主義」『朝日新聞』7月27日号

#### 1965（昭40）年

『アメリカ対外政策決定と議会—その構造と展開—』（深谷満雄共編  
およびあとがき）日本国際問題研究所

「外交政策の決定過程」『アメリカ対外政策決定と議会—その構造と  
展開—』

ハロルド・ニコルソン『外交』（深谷満雄共訳）東京大学出版会

書評「藤原守胤『アメリカ建国史論』」『法学研究』（慶応大学）第38  
巻10号

書評「ジョン・ガンサー『アメリカの内幕』」『週刊読書人』597号

「非暴力抵抗の真実性と現実性—M. L. キング『汝の敵を愛せよ』を  
めぐって」『福音と世界』第20巻8号

#### 1966（昭41）年

「アメリカ建国の思想 概説」 齊藤光訳者代表 『アメリカ建国の思  
想』（世界思想教養全集第7巻）河出書房新社

「トマス・ジェファソン『講演書簡集』（訳および解題）『アメリカ建  
国の思想』

「J. ジェイ, J. マディソン, A. ハミルトン『フェデラリスト』」第1篇  
・第10篇（訳および解題）『アメリカ建国の思想』

「アブラハム・リンカーン『講演書簡集』（訳および解題）『アメリカ  
建国の思想』

「アメリカのアジア観—史的考察—」『思想』503号

書評「アーサー・M・シュレジンガー『ローズヴェルトの時代2…大  
変動期の政治』」『週刊読書人』647号

書評「セオドア・ソレンセンの『ケネディの道』」『週刊読書人』634号

「われは福音を恥とせず？—開国・文化・宣教—」『月刊キリスト』  
第18巻8号

「日米関係と宣教」 日本基督教団信仰職制委員会編 『現代の教会』  
日本基督教団出版部

書評「植村正久著作集1.」『朝日ジャーナル』第8巻12号

「アメリカの大統領」『アメリカ研究振興会会報』6号

「第2回アメリカ研究者会議とアメリカ学会再建」『アメリカ研究振興会会報』7号

1967（昭42）年

『政治一個人と統合—』（阿部齊，有賀弘共著）東京大学出版会

「リチャード・ホフスタッター『アメリカ現代史—改革の時代—』」

（清水知久他共訳およびあとがき）みすず書房

L. レヴィ, J. ロッシュ編『アメリカの政治』（監訳）東京大学出版会

「戦後アメリカ：断続と断絶」『アメリカ研究』1号

「終戦時の対日観と政策決定」『外務省調査月報』第8巻5号「アメリカ指導者の対日観1」

「マッカーサーの世界像と日本観」『外務省調査月報』第8巻5号「アメリカ指導者の対日観1」

「ノールウェイとアメリカ研究」『アメリカ学会会報』7号

「ケネディもの警観」『アメリカ研究振興会会報』9号

「アメリカ今昔 断片」『アメリカ研究振興会会報』10号

1968（昭43）年

チャールズ・A・ピアード『アメリカ政党史』（有賀貞共訳著）東京大学出版会

「民主党の再編とニューディール」『アメリカ政党史』

「戦後の展望」『アメリカ政党史』

「ピアードと憲法制定史解釈」『アメリカ政党史』

「外交一新しく古いアプローチ」中屋健一編『ケネディの時代』東京大学出版会

「ケネディ家とアメリカ史」『ケネディの時代』

「アメリカ人物誌」座右宝刊行会編『アメリカ(2)・カナダ』（世界の旅第18巻）河出書房

書評「マーティン・L・キング」『黒人の進む道』『朝日ジャーナル』

## 第10巻28号

書評「W. ルクテンバーク『ローズヴェルト』』『週刊読書人』731号

書評「G. ケナン『アメリカ外交の基本問題』』『日本読書新聞』

1329号

書評「W. J. シーボルト『日本占領外交の回想』』『日本読書新聞』

1355号

「IPSA 報告—世界政治学会第7回総会—」日本政治学会『年報政治

学—日本の社会主義—明治体制との関連において—』岩波書店

「日本におけるアメリカ研究：戦前」『アメリカ研究振興会会報』12号

「ロバート・ケネディの暗殺」『毎日新聞』6月6日号

## 1969（昭44）年

『アメリカ研究入門』（嘉治元郎共編）東京大学出版会

「展望」『アメリカ研究入門』

『講座アメリカの文化』全6巻別巻2（—1971年）（大橋健三郎，加藤

秀俊共編）南雲堂

『機会と成功の夢—農本主義から産業主義へ—』（講座アメリカの文

化第3巻）（編）南雲堂

「アメリカ・デモクラシーと成功の夢」『機会と成功の夢—農本主義

から産業主義へ—』

『新渡戸稲造著作集』全16巻（—1970年）（編集委員）教文館

『新渡戸稲造著作集』第3巻（編および解説）

「国際主義と孤立主義—アメリカ史の文脈の中で—」『国際問題』

109号

「日本におけるアメリカ研究：戦後」『アメリカ研究振興会会報』13号

## 1970（昭45）年

『高木八尺著作集』全5巻（—1971年）（編集委員および第1巻解説）

東京大学出版会

“American Studies in Pre-War Japan” 『アメリカ研究』4号

- 「1920年代のアメリカ共和党政権下のアメリカ合衆国」『岩波講座 世界歴史』第26巻「現代3」岩波書店
- 『戦後資料—日米関係—』（永井陽之助，山本満共編）日本評論社
- 『現代の世界1．北アメリカ オーストラリア ニューージーランド』（地域研究講座）（中屋健一，嘉治元郎共編）ダイヤモンド社
- 「政党と政治指導」『現代の世界1．北アメリカ オーストラリア ニューージーランド』
- 「A. ハミルトン，J. ジェイ，J. マディソン 『ザ・フェデラリスト』」（抄訳）松本重治編『世界の名著』第33巻 中央公論社
- 『新渡戸稲造著作集』第13巻（編および解説）
- 「東大アメリカ研究資料センター—その沿革と本会との関係—」
- 『アメリカ研究振興会会報』16号
- 「いろいろなレベルでの日米会談」『アメリカ研究振興会会報』17号
- 「研究者としての中屋教授」『渦潮』（東京大学教養学部アメリカ科）18号

## 1971（昭46）年

- 「アメリカ外交の原型—建国期アメリカの対外意識—」慶應義塾大学地域研究グループ編『藤原守胤教授古稀記念論文集，アメリカの対外政策』鹿島研究所出版会
- 『日米関係史—開戦に至る10年（1931—41年）—』全4巻（—1972年）（細谷千博，今井清一，蠟山道雄共編）東京大学出版会
- 「建国期アメリカの防衛思想」小原敬士編『アメリカ産軍複合体の研究』日本国際問題研究所
- 「ニューディール政策の展開」（新川健三郎共同執筆）『岩波講座 世界歴史』第27巻「現代4」
- 高木八尺『米国政治史序説』（編および解説）評論社複初文庫
- 「日本のアメリカ研究」『図書』7月号
- 「最近のアメリカ研究書」『アメリカ研究振興会会報』18号

「この一年間の歩み」『アメリカ研究振興会会報』18号

1972（昭47）年

『アメリカ政治外交史教材—英文資料選』（編）東京大学出版会

『世界におけるアメリカ像』（講座アメリカの文化別巻2）（S. スカード共編）南雲堂

「日本におけるアメリカ像とアメリカ研究」『世界におけるアメリカ像』

バートン・J・バーンスタイン編『ニュー・レフトのアメリカ史像』（宮里政玄他共訳および解説）東京大学出版会

「D. ボーグ『極東政策史研究と二人の歴史家—T. デネットと A. W. グリズウォルド—』（訳）『日米関係史—開戦に至る10年（1931—41年）—』（第4巻）

“American Studies in Pre-War Japan”, in *American Studies: An International Newsletter, Winter, 1972*

「アメリカ研究のあり方」（大橋健三郎，榊原胖夫，本間長世討論）『アメリカ研究』6号

「アメリカ研究と日本研究」『学術月報』第24巻9号

「日本とアメリカ—相違と相似」『ぶっくまん』2月号

書評「ウォルター・アレン編『大西洋をこえて』」『学燈』第69巻2号

書評「武則忠美『アメリカ革命価値体系の研究』」『アメリカ学会会報』26号

書評「A. トックヴィル『アメリカにおけるデモクラシー—』および『アメリカの民主主義』」『週刊読書人』956号

「天皇制特集号廃棄事件の今日的意味」（シンポジウム 市井三郎他）『思想の科学』208号

1973（昭48）年

『日本とアメリカ—比較文化論—』全3巻（本間長世，亀井俊介共編）南雲堂

「アメリカ研究と日本研究」(M. B. ジャンセンと対談, 亀井俊介司会)

『異質文化の衝撃と波動』(日本とアメリカー比較文化論—第1巻)

「序論」(本間長世と対談)『デモクラシーと日米関係』(日本とアメリカー比較文化論—第2巻)

C. E. メリアム『政治権力』上・下(有賀弘共訳) 東京大学出版会

「メリアムとアメリカ政治学界」『政治権力』上

「南原先生とアメリカ研究」『南原繁著作集』第7巻「月報4」

書評「F. J. ターナー『アメリカ史における辺境』」『朝日ジャーナル』第15巻20号

「アメリカ大統領選挙—マクガヴェン大失敗が意味するもの—」

『世界大百科年鑑』平凡社

「J. F. ケネディ」「新渡戸稲造」「F. D. ルーズヴェルト」『ブリタニカ国際大百科事典』TBSブリタニカ

「文化交流雑感」『アメリカ研究振興会会報』23号

#### 1974(昭49)年

『アメリカ古典文庫』全23巻(—1982年)(編集委員) 研究社

「ビアード—歴史状況と歴史研究—」『C. A. ビアード』(アメリカ古典文庫第11巻)

「第一次大戦とアメリカ社会—素描—」 佐藤栄一編『現代国家における軍産関係』日本国際問題研究所

「ニクソン辞任と『アメリカ』」『世界』345号

“Nixon's Resignation and America”, *Japan Echo*, Vol.1, No.2

「政権交代とアメリカ外交」『国際時評』116号

書評「三輪公忠『日米関係の意識と構造』」『アメリカ学会会報』34号

書評「C. バーンスタイン, B. ウッドワード『大統領の陰謀』」『現代』第8巻11・12号

「ニクソン大統領をめぐる」『アメリカ研究振興会会報』25号

「第7回日米文化教育会議をめぐって」『アメリカ研究振興会会報』26号

1975（昭50）年

『アメリカ政治外交史』東京大学出版会

『アメリカ学入門』（嘉治元郎共編）南雲堂

「米学事始 序論」『アメリカ学入門』

「370年の歩み 歴史」『アメリカ学入門』

「新訳・独立宣言」『アメリカ学入門』

「アメリカ大統領制成立の史的背景」『国際問題』185号

*America: People and Thoughts*（編）研究社

*A Brief History of the American People* (D. Chalmers 共編著) 南雲堂

“American Studies in Pre-War Japan”, in Robert H. Walker, ed., *American Studies Abroad*, Westport, Conn, Greenwood Press.

「文化交流の方法」(J. W. フルブライト氏と対談)『国際交流』第2巻2号

書評「ワシントン・ポスト編『ウォータージェートの遺産』」『信濃毎日新聞』3月10日号

「アメリカ・キリスト教史の課題と展望」(荒井俊次氏と対談書評)

『本のひろば』205号

「アジア太平洋地域アメリカ研究者会議について」『アメリカ研究振興会会報』27号

「ヨーロッパ地域アメリカ研究者会議に出席して」『アメリカ研究振興会会報』29号

「アメリカ研究の国際的寄与」『アメリカ研究振興会会報』29号

1976（昭51）年

『アメリカ現代史』（世界現代史第32巻）山川出版社

『総合研究アメリカ3 民主制と権力』（編）研究社

「アメリカ革命—現状の保守と理念の変改—」『総合研究アメリカ 3  
民主制と権力』

『新アメリカ史叢書』全7巻別巻1（今津見共同監修）南雲堂

メリル・ジェンセン『アメリカ憲法の制定』（新アメリカ史叢書第4  
巻）（武則忠美，高木誠共訳）南雲堂

「Merill Jensen, ed., *The Documentary History of the Ratification  
of the Constitution*, Vol.I, II.」（紹介論文，五十嵐武士共同執筆）『国  
家学会雑誌』第90巻11・12号

「アメリカ二百年と日本—政治・外交」『信濃毎日新聞』4月24日号，  
4月27日号，4月28日号，4月30日号

「デモクラシーと個人の責任」『時事英語研究』第30巻12号

「アメリカ研究の特殊性と課題」『不死鳥』40号

「〈76年精神〉の研究」『ワールド』（TBS プリタニカ・ジャーナル）  
18号

「原点としての原典」『アメリカ学会会報』43号

書評「関元『アメリカの原像』」『エコノミスト』第54巻47号

「アメリカの独立宣言書」『アメリカ研究振興会会報』30号

「アメリカ研究の国際化」『アメリカ研究振興会会報』31号

1977（昭52）年

「植民地時代は前史なのか」『不死鳥』43号

「アメリカ社会理解の前提—時間・空間・人間—」『セミナー・ハウ  
ス』46号

*Diplomatic History* の創刊について 『学鑑』第74巻7号

「中国訪問 断想」福武直編『現代の中国—東大教授訪中団報告—』  
東京大学出版会

「カーターはどこまでキリスト教的か—『ジミー・カーターの世界』  
をめぐって—」（山口光朔氏と対談書評）『本の広場』231号

1978（昭53）年

- 『ワシントン体制と日米関係』（細谷千博共編）東京大学出版会  
 「草創期アメリカ研究の目的意識—新渡戸稲造と『米国研究』—」  
 『ワシントン体制と日米関係』
- H. ポートン「日本研究の開拓者たち」（訳）『ワシントン体制と日米関係』
- 『アメリカ革命』（アメリカ古典文庫第16巻）（五十嵐武士共編訳）研究社
- 「世界史の中のアメリカ革命」（序論）『アメリカ革命』（アメリカ古典文庫第16巻）
- 「アメリカ独立戦争と政軍関係—原理と風土—」佐藤栄一編『政治と軍事—その比較史的研究—』日本国際問題研究所
- 「ヒューイ・ロングとニューディール政治」（研究報告速記，1976年4月27日）『社会科学研究』（東京大学社会科学研究所）第28巻5号
- 「藤原先生とアメリカ研究」『法学研究』第51巻3号
- 「藤原守胤先生とアメリカ学会」『アメリカ学会会報』48号
- 「ソウル大学国学研究所を訪れて」『アメリカ学会会報』50号
- 「第9回日米文化教育会議をめぐって」『アメリカ研究振興会会報』35号

1979（昭54）年

*A Political and Diplomatic History of the United States: An Interpretive View*, translated by Shumpei Okamoto and Linda L. Sieg, The University of Tokyo Press

「ヒューイ・ロングとニューディール政治—大衆民主制下の政治力学—」東京大学社会科学研究所編『運動と抵抗・中』（フェンズム期の国家と社会7）東京大学出版会

「プリンストン高等研究所の設立—アメリカ史の中の「無用の学の用」—」『国家学会雑誌』第93巻7・8号

Regional Editor's Introductory Note—Special Issue: Asia and the

Pacific —, *American Studies International*, 108., No.1

"Japanese-American Cultural Exchange and American Studies"

『アメリカ研究資料センター年報』2号

1980 (昭55) 年

「独立宣言をめぐる」『不死鳥』50号

"As We Saw Them: The First Japanese Embassy to the U.S.

(1860)", *Japan Quarterly*, Vol. XXXVII., No. 2, April-June, 1980

「国際化と地方化」『アメリカ研究振興会会報』38号

1981 (昭56) 年

『アメリカ史の文脈』岩波書店

『比較政治1. 先進工業国・特殊性と普遍性』(河合秀和・百瀬宏と共著) 旺文社

『原典アメリカ史』第6巻(編者代表) 岩波書店

「第二次大戦とアメリカ」(概説)『原典アメリカ史』第6巻

「D. アイゼンハワー『告別演説』」(訳および解説)『原典アメリカ史』第6巻

「アメリカ社会と日米関係」(東京 YMCA 講演速記)『別冊東京青年』134号

"What Effect Has the Occupation Had on Japan-U. S. Relations?," *Japan Quarterly*, Vol. XXXVII., No.4

「もう一人のヘボン—東大ヘボン講座のことなど」『学会会報』753号

「アメリカ研究との出会い—退官にあたって」『東京大学新聞』4月6日号(236号)

書評「柳生望『アメリカ・ピューリタン研究』」『本のひろば』6月号

「新保守主義の台頭の歴史的背景」(宇沢弘文氏との対談)『エコノミスト』7月5日号

『原典アメリカ史』第7巻(編者代表) 岩波書店

"On Starting the Japanese Journal of American Studies," *The Japanese Journal of American Studies*, No.1

1982 (昭57) 年

「独立宣言研究史素描—G. ウイルズと M. ホワイトの問題提起を機会に」、『アメリカ独立革命—伝統の形式』阿部齊他編 東京大学出版会  
「独立宣言における独立」『アメリカ学会会報』5月65号

「アメリカ研究の姿勢—求心性から遠心性へ」『「アメリカ研究」教育—現状の分析と改善への模索』「アメリカ研究」教育プロジェクト運営委員会報告

「東京大学・スタンフォード大学アメリカ研究セミナーの意義：政治部門」『東京大学アメリカ研究資料センター紀要』1982年, 4月

「ルーズベルトの遺産—生誕百年を迎えて」『高知新聞』他(共同) 2月11日号

1983 (昭58) 年

「イギリス人の見たアメリカの戦時対外政策—参戦と終戦とをめぐって」『第二次大戦下のアメリカ社会』(東京大学教養学部, 科学研究費研究報告)

1984 (昭59) 年

『国際関係における文化交流』(平野健一郎他共編) 日本国際問題研究所

B. R. ミッチェル編『マクミラン世界歴史統計3. 南北アメリカ・大洋州篇』(監訳)

「知的誠実の生涯—高木八尺先生を悼む」『朝日新聞』5月4日号

「高木八尺先生とアメリカ学会設立」『アメリカ学会会報』74号

「セオドア・ローズヴェルト—指導者を自覚した初のアメリカ大統領」『人物アメリカ史』第4巻 集英社

「フランクリン・D・ローズヴェルト—ニューディールと第二次大戦」『人物アメリカ史』第6巻 集英社

「熱い戦争から冷戦の時代へ」『人物アメリカ史』第6巻 集英社  
 「日米開戦40年」（松本重治氏との対談）『新潟新報』他（共同）  
 「アメリカ合衆国」「序論」「政治」「軍事」「外交」「歴史」その他約  
 40項 『平凡社大百科事典』（-1985）

## 1985（昭60）年

「独立宣言における分離と統合—T. ジェファソンにおける（独立）の  
 理解」『国家学会雑誌』98巻9・10号  
 「終りの終り—米国と第二次大戦終結」『新防衛論集』13巻2号  
 「ジェイムズ・ウィルソンと連邦憲法制定の基本原則」『社会科学  
 ジャーナル』（国際基督教大学社会科学研究所）24号  
 “What Was Meant by ‘Independence’ in the Declaration of  
 Independence?,” *The Japanese Journal of American Studies*, No.2  
 『アメリカ精神を求めて—高木八尺の生涯』（本間長世他共編著）東京  
 大学出版会  
 書評「鈴木有郷『アブラハム・リンカンの生涯と信仰』」『本のひろ  
 ば』326号  
 「世界の新渡戸」『新渡戸稲造』札幌市教育委員会編

## 1986（昭61）年

『アメリカを知る事典』（監修）平凡社  
 「世界史におけるアメリカ」（序論）他約40項目 『アメリカを知る事  
 典』  
 「尉繚子の兵法とフランクリン・D・ローズヴェルト」『活性』臨時増  
 刊号3月10号(4)

## 1987（昭62）年

「日本における国際学研究の先駆者—高木八尺」明治学院論叢『国際  
 学研究』創刊号  
 「連邦憲法制定と Antifederalists の逆説的貢献」『社会科学ジャーナ  
 ル』25号(1)

「国家創設としての憲法制定」『思想』11月号

「原型としてのプリマス植民地の形成—同質と異質との統合」『国家学会百年記念—国家と市民』第2巻 有斐閣

“The Paradoxical Contribution of the Antifederalists to the United States Constitution,” *Nanzan Review of American Studies*, Vol.K.

1988 (昭63) 年

「米国艦隊の世界周航と T・ローズヴェルト」本間長世編『現代アメリカの出現』東京大学出版会

「歴史的にみた大統領—その地位と役割の変遷—」『アメリカ合衆国大統領—歴史読本ワールド』第11号 新人物往来社

「26代 T・ローズヴェルト」同上

「27代 W・H・タフト」同上

「アメリカ憲法と日本国憲法」愛知大学国際問題研究所『紀要』86号

「変貌する知識人の役割」小川晃一・片山原編『アメリカ知識人—その意味するもの』アメリカ研究札幌クール・セミナー第七篇 木鐸社

C. A. ビアード著 松本重治訳〔改版〕『アメリカ共和国』(解説)みすず書房

R. ホーフスタッター〔新版〕『改革の時代』(清水知久他共訳および訳者あとがき)みすず書房

S. S. ウォリン『政治学批判』(千葉眞・中村孝文共訳)みすず書房

「アメリカの独立」ほか14項『現代政治学事典』大学教育社

1989 (平1) 年

「諜報・情報・研究」『日本国際政治学会ニューズレター』46号

「松本重治先生とアメリカ研究」『アメリカ学会会報』92号

(論文紹介) Michael Zuckerman, *Charles Beard and the Constitution: The Use of Enchantment*, 〈他3篇〉56 GEO. WASH. L. REV.

81(1987)『アメリカ法』(日米法学会)1989年2号

1990（平2）年

『追想 松本重治』（粕谷一希他共編）国際文化会館

書評「大蔵雄之助『一票の反対—ジャネット・ランキンの生涯』」

『アメリカ学会会報』96号

1991（平3）年

「民兵制度と革命戦争—アメリカ独立戦争をめぐる」(1)『国家学会雑誌』第104巻3・4号

「日露戦争のころのアメリカの対日観：ノート—もう一人のジョージ・ケナンの観察」『19世紀後半における日米文化交流』国際基督教大学科学研究費研究報告

「基督教転化の論理—中島和子『黒人の政治参加と第三世紀アメリカの出現』を読んで」『福音と世界』1月号

「連邦議会・日米関係・地元有権者」『アメリカ研究振興会会報』50号